


資料1-3

国立大学法人の戦略的経営実現に向けた
検討会議(第9回)
R2.10.23



国立大学法人の戦略的経営実現に 向けた検討会議(第9回)

2020年 10月 23日

東北大学総長

大野 英男

議題1. 国立大学法人のエンゲージメントの在り方





学生とのエンゲージメントのまとめ

入学前



在学中



卒業後

【ステークホルダーの声】 【改善内容】

高校対象入試調査
(300校)
合格者調査
海外ネットワーク



AO入試の拡大
AO入試合格者の入学前海外研修
海外のトップクラス高校生を選抜



【ステークホルダーの声】 【改善内容】

教育評価アンケート
学生との懇談会
保護者懇談会
国際アドバイザリーボード



学生生活支援の構築
成績評価ガイドライン作成
教育アウトカムの可視化
国際教育プログラムの充実



【ステークホルダーの声】 【改善内容】

卒業生・修了生調査
雇用者（産業界など）調査
校友ネットワーク



学位プログラム型
大学院コース新設
国際共修科目の新設
循環型支援サイクルの構築





THE世界大学ランキング日本版 における評価指標



THE世界大学ランキング日本版
2020 総合評価 1位

教育のリソース34%

- 学生一人あたりの資金 (8%)
- 学生一人あたりの教員比率 (8%)
- 教員一人あたりの論文数 (7%)
- 大学合格者の学力 (6%)
- 教員一人あたりの競争的資金獲得数 (5%)

教育充実度30%

- 学生調査：教員・学生の交流、協働学習の機会 (6%)
- 学生調査：授業・指導の充実度 (6%)
- 学生調査：大学の推奨度 (6%)
- 高校教員の評判調査：グローバル人材育成の重視 (6%)
- 高校教員の評判調査：入学後の能力伸長 (6%)

国際性20%

- 外国人学生比率 (5%)
- 外国人教員比率 (5%)
- 日本人学生の留学比率 (5%)
- 外国語で行われている講座の比率 (5%)

教育成果16%

- 企業人事の評判調査 (8%)
- 研究者の評判調査 (8%)

教育充実度

学生

高校
教員

大学

企業
人事

研究者

教育成果

朝日新聞出版「大学ランキング」における 高校からの評価指標

高校からの評価指標

- 進学先で生徒が伸びた
- 進路支援が充実
- 国際化に力を入れている
- 情報開示に熱心

朝日新聞出版「大学ランキング2021」

高校からの評価 総合評価 1位

※16年間で、総合1位を15回





学生とのエンゲージメント：入学前①

複数の志願者・合格者を輩出した 高校上位300校を対象とした本学独自の 入試調査を2017年度以降、毎年実施

- 高校との積極的対話を通じ、AO入試の拡大を含む多様な入試改革を実施→ **全国トップレベルのAO入試の定員割合**

2000年度から 入試説明会・進学説明会を実施

- 全国21会場で実施し、延べ3,500名を超える高校教員、高校生、保護者が参加
- 今年度はオンラインにより実施し、延べ3万人が参加



国立大学初 AO入試合格者への入学前海外研修

- 一足早く入学が決まったAO入試合格者の「大学生になったら海外留学したい」の声を**入学前**に実現
- 2015年度に**国立大学で初めて導入**、米国2大学へ33名派遣（2018年度）
- 今年度も規模を拡充し、オンラインでの研修を予定



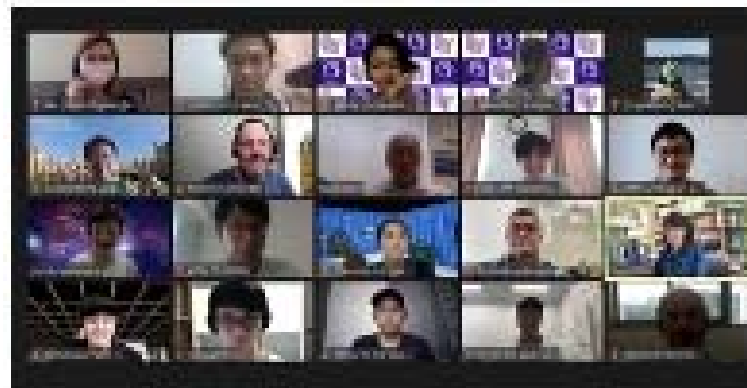
大学入試に携わる高校関係者の声 高等教育フォーラムの開催

- 2004年度より毎年開催
- 大学入試研究者と高校教員の約400名が参加
- 「大学入試を設計する(2020)」 「入試制度が変わるとき(2019)」 「主体性とは何だろうか(2018)」などの様々な切り口をテーマとし、大学入試を徹底討論



海外ネットワークを利用した 戦略的なアドミッション

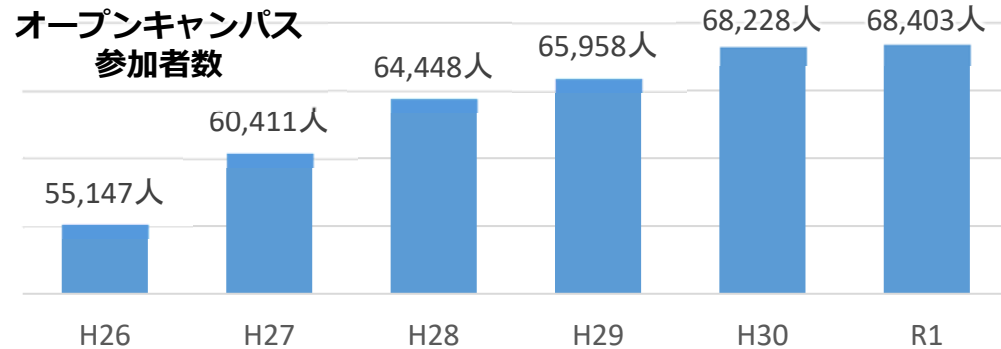
- 世界トップレベルの学部学生が集う国際学士コース ~ **満点に近いSATスコアの学生を高校とタイアップして獲得**
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、**入試および入学前教育を完全オンラインで実施（ニューノーマル対応）**





国内最大規模のオープンキャンパスを実施

- 朝日新聞社「大学ランキング2021」
オープンキャンパス参加者数 第1位（約7万人参加）
- 入学者の50%以上がオープンキャンパスを体験



オンラインを活用したオープンキャンパスの開催

- 2020年東北大学オープンキャンパスは、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、オンラインを活用した「オンラインオープンキャンパス」として開催
- 特設HPを開設し、各学部・研究科等毎の多様なオンラインプログラムを展開
- 総ページビュー数：21万超（2020.7.29～10.18）

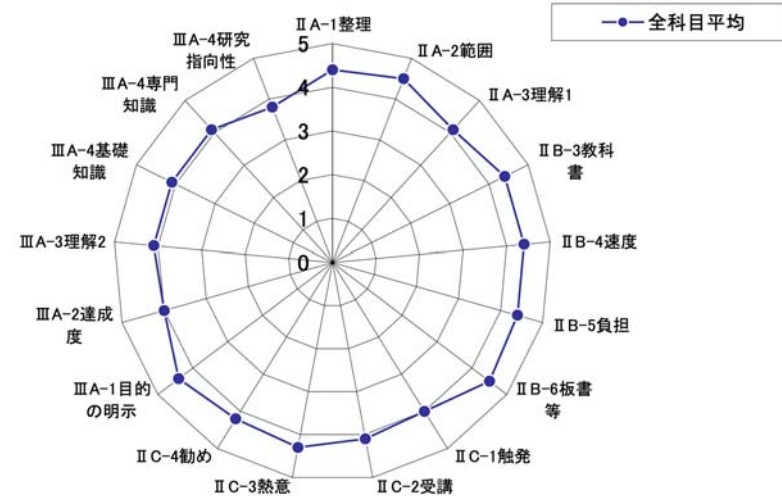




工学教育院 ～ 研究型大学における次世代工学教育システムの構築

- 学修レベル認定制度（学部～修士課程の6年一貫の到達度評価）で、学生個々の多様性に富んだ個性や能力を評価
- 自分のレベルをレーダーチャートで毎年確認し、自分の能力の強み・弱みを自覚でき、卒業までに自身で鍛えていく方向性を発見
- 教育アウトカムの可視化により、学生が自ら学ぶ意欲を増進
- 学生による授業評価の実施と授業改善への反映

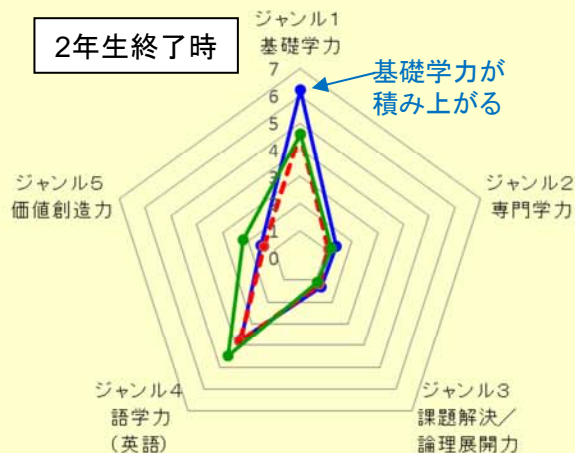
学生による授業評価アンケート結果



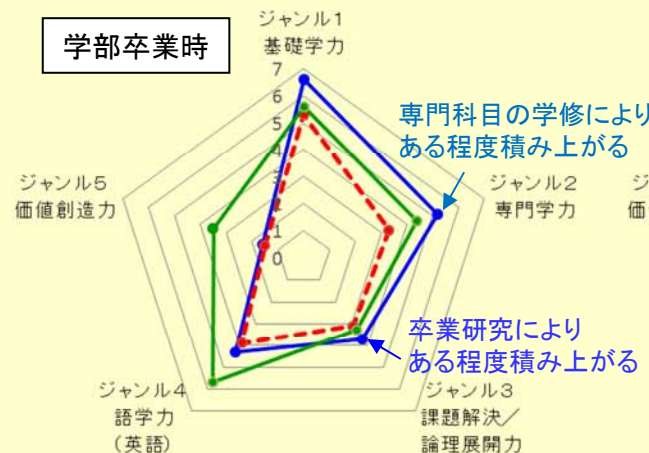
* 各ジャンルにおける個人の到達度を評価
* レーダーチャートにて各自が毎年確認

---●--- 学年平均
—●— 学生A(例: 特に単位に関連する学修に注力した学生)
—●— 学生B(例: 特に課外活動や語学に注力した学生)

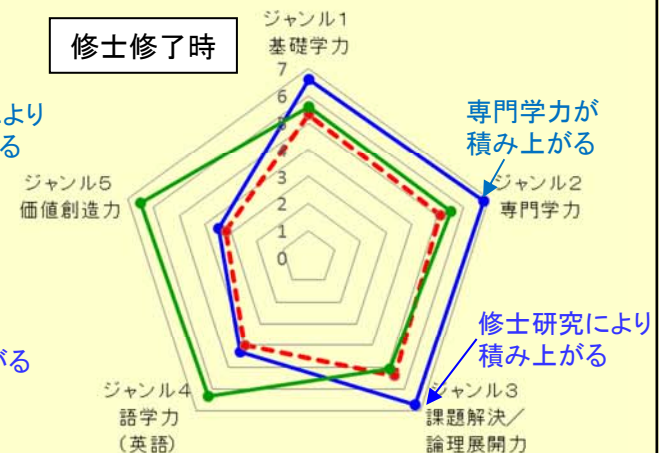
2年生終了時



学部卒業時



修士修了時



学部1年

学部2年

学部3年

学部4年

修士1年

修士2年



学生とのエンゲージメント：在学中②

全学教育に関するモニタリング学生との懇談会

- 全学教育に対する意見や要望を学生から直接聞いて、フィードバックを実施
- 【具体的な改善内容】
シラバス公表の早期化
授業科目の開講時間割調整
複数開講クラスにおける成績評価基準統一
キャンパスバス運行時間の改善
成績評価ガイドライン作成とチェック体制構築



保護者からの質問にHPで迅速に回答

学生の保護者を中心に東北大学懇談会を実施

Q. 今後、通常授業が開始された場合の衛生面での配慮について知りたい!

- A
- 教室利用にあたっては、3密とならないようにルールを定め、マスク着用やアルコール消毒液の配置も徹底しています。
 - ・ ドア、窓の開放（一定時間毎の換気）
 - ・ 入退室管理（教室利用者の把握）
 - ・ 収容人数の制限 ・ 発熱・体調不良者の入室禁止 etc.
 - トイレの衛生管理や生協食堂（当面は弁当販売）での3密回避も徹底していきます。
- ※以上の対応は、感染症対策班の学内専門家の指導の下に実施



国際アドバイザリーボードによる教育国際化に関する助言

- 留学生のリクルーティングと定員の在り方
- 留学生のキャリアパスの拡大
- 人文社会科学分野の国際共同大学院プログラムの創設
- 異文化体験をもたらす学内外での共修プログラムの設計

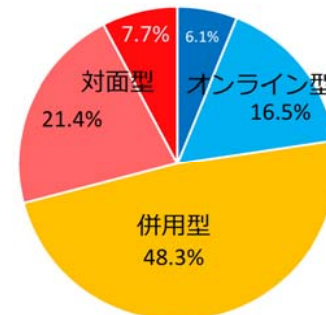


今後は、オンラインと対面授業のハイブリッドへ

- 第1学期：開講 約4,400科目をオンライン実施
- 第2学期：オンラインと対面のハイブリッドへ

授業アンケートの実施結果（6月実施）

Q. 今後、東北大学の授業はどうなることを希望しますか？



- 全てがオンライン形式
- 主としてオンライン形式
- オンラインと対面形式の併用
- 主として対面形式
- 全てが対面形式

学生（学部・大学院生4,168名回答）



学生参画型ピアサポーター制度 (2,500名配置)

- コロナ禍の厳しい制約下においても、新入生に対するきめ細やかなアドバイスを実施するため、アドバイザー教員と連携しながら、ピアサポーターがオンラインによる学習・生活支援を行う体制を構築



SLA (Student Learning Adviser)

- 学部3年生以上の先輩学生が学部1・2年生の学びを支援
- 年間利用者2,400名
理系科目支援、英会話支援、ライティング支援、学習企画実施など幅広い学習サポート



特別支援 学生サポーター

- 障がいのある学生の修学を学生により支援・協力、事前研修を受講のうえ、サポート・協力内容を決定
- 対面朗読、手書きノートテイク、PCノートテイク、映像資料の字幕付け作業、移動介助など



留学生支援 (ヘルプデスク、図書館コンシェルジュ)

- 留学生ヘルプデスク**：日本での日常生活に関する質問にワンストップで対応（授業履修、国民年金、日本語確認など）
- 図書館コンシェルジュ**：図書館の利用に関し留学生を支援（資料の探し方、wifi接続、館内施設利用法等）
- ピアサポートによる、**留学生支援のプラットフォームを構築**





校友ネットワークを活用した 愛校心の醸成

- 卒業生やその家族等の校友を対象に、本学の魅力を共感できる場としてのイベントを開催（ホームカミングデー（約800名）、各地区交流会（13ヶ所、約1,000名）など）
- 上記イベントを通して、愛校心・寄附文化の醸成
- 校友の支援を受けた学生が校友として後輩を支える循環型支援サイクルを構築



東北大学オンライン同窓生交流会

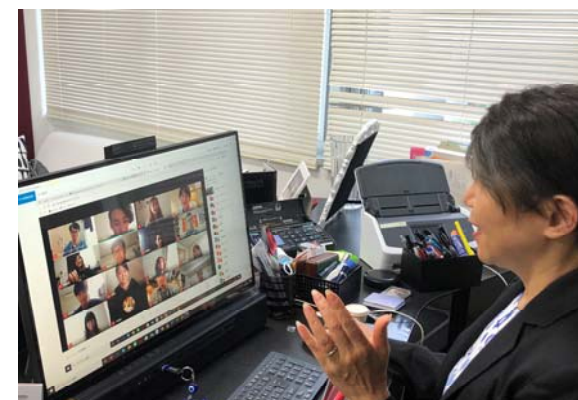
「Time to Unite! Online Alumni Gathering for Founders Day 2020」

- 東北大学創立記念日を記念して、東北大学は同窓生とのオンライン交流会を開催
- 海外同窓生を対象とした初のオンライン国際交流の取組であり、20か国以上から年代も所属部局も多様な多くの同窓生が参加



東北大学の教育に関する卒業・修了者 ／雇用者（産業界など）調査

- 卒業・修了者調査：卒業・修了後5年を経過した者を対象
雇用者調査：東北大学キャリア就職フェア出展企業・団体等を対象
- 「専門分野に関する知識や技能」、「自主的かつ自立的に学習する能力」について、東北大学における経験の貢献度が高いことが判明
- 一方、「リーダーシップの能力」、「外国語の運用能力」については十分でないことが判明
- これらを踏まえ、以下の大学の制度改革を実現
 - 世界を牽引する高度な人材を育成する国際共同大学院プログラムの新設
 - あらゆるセクターを牽引する卓越した人材を育成する卓越大学院プログラムの新設
 - 外国語や異文化理解力の育成を目標とした国際共修科目の新設



オンライン国際共修授業を実施中の
末松教授
(グローバルラーニングセンター)

議題2.
学生視点からの国立大学の収容定員総数の在り方



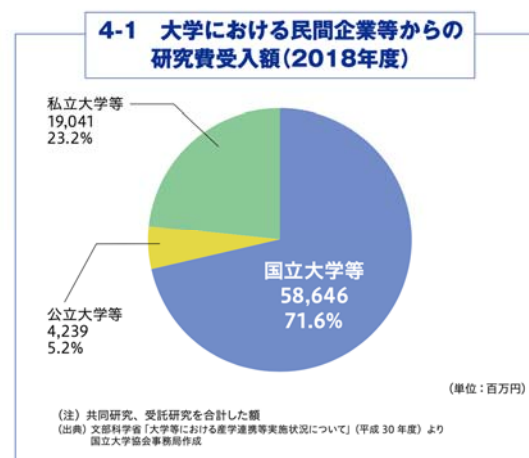
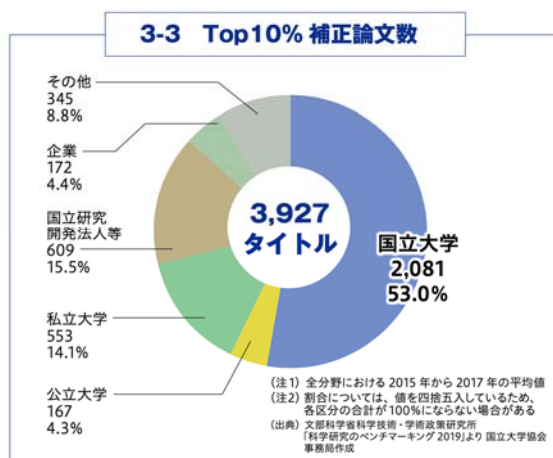


● 【知識集約型社会における高等教育の価値】

今後の知識集約型社会においては、人口減少局面であるからこそ、高等教育を受けた労働生産性の高い人材の確保が生命線である。

● 【研究大学における学部教育】

研究大学は我が国の国際競争力ある研究や産学連携を牽引している。国立大学の全体の統計データを以下に示す。このことは、とりわけ研究を志向する国立大学が、我が国の若者に対して、学部から大学院まで一貫する卓越した環境で研鑽を積むことにより成長する場を提供していることを示している。



※出典：「データで見る国立大学」
(国立大学協会)

- 以上の観点から、グローバル競争が激化する状況の下で、特に研究を志向する国立大学の定員を削減する選択肢は、我が国の発展を考えると取り難いのではないか。



- **【人口減少下での国立大学の使命】**

国立大学は、その定員を絞るのではなく、時代の要請に応じて総合的・多面的選抜を通してむしろ多様な学生を受け入れ、生涯学び続ける力を備えた知識集約型社会の担い手として送り出すことが求められるのではないかと。

- **【グローバル競争下での卓越した留学生の獲得】**

なお、今後卒業する学生にとっては、グローバルな環境で活動することが日常となるため、特に、研究大学のキャンパスにおいては、日本人学生と卓越した留学生がともに過ごし、切磋琢磨して価値創造に取り組む機会を提供すべきである。学部段階から、卓越した留学生の割合を早期に10%~20%程度に高めることは、今後の我が国の戦略として重要である。